

ひとり旅にでる 渋谷・京都編

2015.08.19-2015.12.19

目 次

2015・08・19(水)	
ミッション	1
2015・08・22(土)	
限界	5
2015・08・28(金)	
また あるく	9
2015・09・09(水)	
渋谷に着く	12
2015・10・20(火)	
演歌を聴きに行く	22
2015・10・26(月)	

京都に行く I	28
2015・10・26(月)	
京都に行く II	35
2015・10・27(火)	
おとぎ話	48
2015・11・14(土)	
冬の足音	52
2015・12・8(火)	
年をとる	59
2015・12・19(土)	
おねがい	71
2015・11・27(金)	

7月の末に 不覚にも 足を 捻挫してしまいました。
もう3週間が過ぎるというのに まだ、足首は 腫れたままなんです。

動くと痛むので、しかたなく 毎日家にばかりいることになり、
本当に元気をなくしてしまいました。
このままではいけない と、腫れもひきかけたので、ちょっと無理をして、倉敷イオンに「ミッション インポッシブル ローグ・ネイション」を観に行きました。

でもこれが、元気を取り戻す きっかけになりました。

イーサン・ハントもいいけど、今回は女性の諜報部員が、カッコいい！

クールで 理知的で、そして アクションが 綺麗なんです。

もちろん 美人だから そうなんでしょうけれど、バイクに乗った ヘルメット姿も またステキです。



トム・クルーズが少し年とった分、女性にちょっと 助けられる場面とかが増えて、なかなか味のある内容になっていました。

帰りは 気持ちが ハイになっていて、うっかり 足のけがを 忘れ

てしまうほど…



「不可能な 指令…」

そう言えば 人間だって 「指令」と言うか 「使命」というものを 背負っているんじゃないかと思います。

「指令」と違う点は、それが何かを 分からないで 一生を終える かもしれないってことでしょうか。

そういう、私も まだ、それをはっきりとは 掴めないで 生きているんですけれども…

けれど、最近では 思うのです

世の中の常識や 自分の欲望のみに左右されず、生きる方向を定

めた時 少しばかり その姿を 捉えることができるんじゃないだ
ろうかと…

そして、その行程に愛があるならば、もしかするとそれは 本物
に近いのかもしれない。

ひさしぶりに ほんとにひさしぶりに、早朝 散歩をしました。
散歩をしなくなる以前より、風は涼しく、心地よく感じられました。

空は、台風の影響なのか 曇り空でしたが、その透明さは相変わらずで、なんだか 故郷に戻ってきたような そんな 感覚に捉われて、思わず写真を何枚も撮ってしまいました。

けれど 足の方は今ひとつ 思うようには動かず、無事だった右足にかなり負担を



かけなければ 歩けない状況で、まだまだ 歩きを楽しめる状況には、立ち戻っていません。

数週間の中に、以前は咲いていなかった 野の花や、とんぼやチョウの姿、名前の知らない背の高い鳥が、物静かに留まっていて、何気ない風景なのにもかかわらず、目に鮮やかに 飛び込んで来ました。

このところ 少し体力も落ちてきて、歩かなければ… と思って、今朝は頑張ってみたのですが、本当のところ、果たして明日は無事 歩けるかな？って 感じではあります。

草むらき ちらちら 飛んで

ちようちようが

あともう少しと 去つてゆき

ただ…

歩くということは、人間にとって生きて行く上で、基本的なものなんだということが、この数か月で実感できました。

歩いて1日が始まる生活は、きっと数千万年もの昔から 繰り返されてきた、人間にとって 命の源なのだろうと つくづく思います。

生き方が前向きになる、考えに 勢いがつく、行動が 機敏になる、力強い動作ができる、などなど…

いいことづくめなんですけれど、これも性格の

せいで、雨の日も、風の日も、雪の日も 一日も欠かしたことがありませんでした。

それが、筋肉の疲労を招いて、今回の怪我につながったように思います。

何をするにも 休養は必要ですが、年々、いえ 今では 季節ごとに変わる体調と体力の限界も、知らなければならぬということですよ。



長い 夏休みも終わったようで、中学生、高校生の自転車姿があちこちに見られるようになりました

あと2日ばかりで旅行に行くつもりなのですが、1ヶ月前に足を捻挫して以来、まだ、完全に治ってはいないので
たぶん、あちこち 歩かなければならないと思うので、練習のために 少しゆっくり朝の散歩を再開しました
正直なところ、まだ少し痛みを感じますが、日一日と良くはなっているようで、以前のコースをなんとか歩けました

この調子だと予定通り、東京に行けそうです

あとは天候しだいで、倉敷はどうも雨か曇りのようですが、東京は晴れ、曇りのマーク！

ま、こればかりはおてんとうさまに お任せですから、仕方ありません

今朝の空は、雲ばかりで 青空が見えませんでした。

残念!!

ま、そういう日も あります…ねえ



人ならば我慢をせねばならずとも

とんぼと為りて宙を飛ぶなり



登り坂

前を見ないで足もとを

ただただ見つめて歩をすすめ

夏の終わりに 東京へ旅に出ました。

今年は渋谷から、目黒にある「美空ひばり記念館」と、青山にある「岡本太郎記念館」が目的でした。

それぞれの記念館へは、渋谷駅からバスが出ています。

渋谷という町は、オシャレな若者がたくさんいました。

垢抜けているというんでしょうね。

駅で歩く人達の速さは、この辺とは比べ物になりません。

駅から道路に出ると霧雨が降っていたのですが、だれも傘をささないで、小脇に抱えて歩いていました。

きっと、行きかう人たちの迷惑にならないよう ぶつからないように気を付けているんでしょう。

そうすることが、習慣というか身につけている感じがしました。

渋谷駅西口のターミナルから目黒へ向かうバスでは 女性の運転手さんが曲がり角で指さし確認、おっとりした口調でアナウンスをしていて、とても丁寧でした。

ひとり旅では どうしたって、行く道を尋ねなくてはならないのですが、どこで聞いても、最後まで話を聞いて、ゆっくりと詳し

く教えてくれました。

東京の人たちという早口でそっけない印象を持っていたから、少し驚きました。

また、今回の旅行では、よくコンビニを利用しました。

なぜかって、どの道にもセブンイレブンやローソン、ファミリーマートなどのどれかがあって、重宝だからです。

費用を安くあげられる上に、道を尋ねることができ、コーナーにカウンターがあるところ



では、歩き通しの時間を1杯のコーヒーでひと息つくことができ

ます。それに、地図を見ながら、次の目的地への計画を立てやすいからでした。

「美空ひばり記念館」は、予約制なのですが、見知らぬご夫婦とご一緒になり、日本間で「ところてん」を頂いたり、愛車だったキャデラックの前で記念撮影をしたりして、楽しいひと時を過ごしました。

ひばりさんは、紫の色が好きだったそうで、リビングには紫のピアノが置かれ、カーペットもやや薄めの紫色でした。



お庭は、さほど広くはないけど、桜の木、藤棚、アジサイなど、四季折々の木や花が咲く緑豊かな庭園になっ

ていました。

晩年は、足が悪かったので、ガラス張りのリビングから、美しい庭と空の調和を 始終 眺められるように、設計されているようでした。

ひばり邸を見学した後 巡回バスで駅に戻り、次は東口から南青山の「岡本太郎記念館」へ行く予定だったのですが、うっかりバスを間違えて、全く違う方面に向かっていました。

10分ほど経ってから 自分の間違いに気が付き、途中で引返しました。車掌さんに確かめれば良かったのですが、乗場のNo. だけを見て、着いたばかりのバスに、飛び乗ってしまったのが間違い

の元でした。

とにかく、一旦、駅まで戻らなくてはなりません。というわけで、結局、「岡本太郎記念館」に着くまで、50分ばかりを無駄にしておりましたが、iPhoneを片手に何とか、目的地に着くことができました。

見学の後は、また、駅に帰り、ホテルの荷物を持って羽田に戻らなくてはならなかったので、残念ながら、ここではゆっくり過ごすわけにはいきません。

でも、アトリエと絵や彫像やうっそうとした庭園などを一通り見てから、教室の生徒さんに気持ちばかりのお土産も買えました。

岡本太郎という人は、人間の生命を 木になぞらえて 表現しているんだそうです。

それで、あの「太陽の塔」のような形のものが出来たんですね。

帰りは 夜の飛行機にしていました。

だから、ゆっくり見て回れた方なんでしょうけれど、それでも、お土産の買い物をしていると、すぐに時間は経ってしまいます。



羽田から岡山空港に着き、バスと電車で自宅に帰り着いたのは、もう夜の11時を過ぎていました。

あちらこちらと 見て回って、少し疲れましたが、それでもわたしは とても満足しました。

そして、この旅行から帰った後、実行しようと思ったことがいくつかありました。

まず、ひとつ目は

人と話す時は、相手の話を最後まで聞いて、丁寧に話すことにしよう、です。

そうすれば、相手の方も、自然と丁寧に話をするようになるから。

次に、歩く時は、スーパーの中でも、決してぶつからないように歩くようにしよう、です。

無駄な時間も、トラブルも、気分の悪さも防げるから。

3番目は、気持ちの良いオシャレや、お化粧をしよう、です。

いかにもオシャレしてますって感じではなく、さりげなくて品の良い オシャレは 見る人を気持ち良くさせるものだから。

今回の旅行で、わたしは、また、様々な経験をし、今まで知らなかったことを 学びました。

そして、これからも ずーっと そういう自分でありたいと思っています。



秋も深まった 休日に、急ぎ足で 神戸三宮にある国際会館ホールというところへ、「都はるみ」と「八代亜紀」の演歌を聴きに行きました。

二人共、もう 円熟味というより、歌にはさらに深味を増して、堂々たるベテラン歌手のステージでした。日頃から歌っていないと、たぶんもう、声が出ない年齢なのですが、そういうことは全く感じさせません。

都はるみは 今年がファイナルコンサートと 銘打ってのステージ

で、わたしは 今月、結構忙しかったのだけれど、見逃さないようにと思って、出かけたのです。神戸が全国ツアーの中では一番近い場所でした。

母がファンで彼女の曲をよく歌っていました。当然、わたしも子どもの頃から、それらの曲を耳にしていましたから、彼女は大好きだったのです。

神戸という土地には少し慣れていたので、あまり迷うこともなく、目的地に着いたのですが、ホールへは並んで入るぐらいの盛況でした。

どちらかというと、というか、ほとんどがわたし以上の年齢の人たちばかりでしたけれど…

ご夫婦で来ている人たちも多くて、とにかく皆さん お元気で、賑やかでしたね。知らない隣の人と、すぐにおしゃべりができていました。

ステージは、2人のトークで始まりましたが、プログラムというものを渡されていなかったのので、何の歌から始まって、何曲歌って、いつ、途中休憩なのか、はたまた、最後にアンコールはあるのかどうかも、わかりませんでした。

ピアノやオーケストラ、シャンソンやポップス歌手のステージでは、必ずプログラムがあったのですが、満員に近い会場なのに、



2人の掛け合いトークだけで、次から次へと…

それぞれが自慢の曲を歌いあげて、どんどん進行して行きました。衣装も、艶やかで きらびやかなものばかり。それぞれが対照的な着物やドレスをまもっては現れます。

それから、スモークというものも 初めてでした。最初は、どうして、会場がこんなに煙っているのかって 不思議に思いましたけれど…

とにかく、「都はるみ」の歌は懐かしく、時に元気を、またある時には哀愁を湛えて パワーがありました。

「八代亜紀」の方は、ジャズも得意なようでしたが、主に自分の

ヒット曲を歌い、それがちょうど、両親の入院時に、巷に流れていた曲だったので、思い出しては涙しました。

苦しみの渦の中にいる時より、遠く過ぎ去った今の方が、痛みの記憶は、静かな涙で傷を癒してくれるものなのかもしれません。

中休憩15分を含めて、約2時間30分のステージが終わり、わたしは、久しぶりの音楽に満足して、心地よく帰路につきました。忙しい一日だったけれども、やはり本物は、見て聴いて感動するものなのだと、改めて思いました。

えん歌

懐かしい 演歌を聴き
若い頃の 苦しい日々を 想う
苦しみに 沈んでいる時は
涙せずとも
過ぎ去った 今になって
涙は 溢れて止まらない
苦くて甘い ドリンクの味



秋に旅行はしないのだけれど、家族がホテルを予約してくれたので、行くことにしました。計画は自分次第だから、無理のないように、とは思ったのですが、やっぱりめったには行かないので、平安神宮と京都御所の見学を決めました。平安神宮は、京都駅から地下鉄に乗って、歩いて行くつもりだったけど、ちょっと方向を間違えたので、途中でタクシーに乗りました。夕方で少しお天気も悪かったのに、まだまだ人はたくさんいました。



平安神宮¹では砂利道が境内まで続くので、キャリーバッグで歩くのは、はばかられたので、持ち歩いたら 重くて、失敗でした。でも、せっかくなので、神苑という名の庭園にも入りました。

紅葉は残念ながら、まだもう少し先のようにでした。でも、電車ばかりだったから、散策は悪くありません。

帰り道も、歩いて東山駅まで行き、そこから、また地下鉄に乗って烏丸御池駅で降りました。地下からぐるっと回った階段を上がり、地上に出たら、徒歩5分でホテルに着きました。

文章で書けば、すぐみたいです。歩くことが多い京都の場合、烏丸通り沿いにある ホテルまででも、結構遠く感じました。

ホテルでは、フロントで、カードキーを渡されただけで、ポーターさんにお部屋を案内してもらうこともなく、自分で荷物を持って、エレベーターで向かいました。

いいホテルなのに、???って感じでした。

荷物を置いて、お茶をいただいて、ほっと一息ついてから、午後7時に予約してくれていた2階の日本料理のお店へ…

夕食は懐石料理で、概ね1時間以上もかけて、一品一品、説明をしてもらいながら、素材の味を、いただきました。

普段、私は そんな贅沢な時間を持たないので、窓の外を眺めながら、ゆっくり



座っていました。すると、過ぎ去った様々な情景が、脳裏に蘇ってきます。

大概は、子どもの頃の懐かしい家庭の思い出です。セピア色ではないけれども、サザエさんちみたいな平和でのんきな家庭のひとコマ。2階のベランダに ハトが留まっている光景だったり、ベランダから隣の屋根づたいに歩いて、ネコと一緒に日向ぼっこをしていたり、白いお布団が屋根の上にペタペタ 干してあったり…

なぜか、最初のうちは、自分以外の人間は現れてこなくて、柔らかな太陽の日差しや、日だまりの温もりや、のんびりした自由気ままな 贅沢な時間（今では使われなくても）の光景です。

そんなことを 思いだしていたら、いつの間にか デザートが運ば

れ、これでおしまい… になりました。ずいぶん食べちゃったの
でしょうか？

お腹いっぱいになって、お部屋に帰り、カーテンごしに窓の外を
覗くと、まだまだ、町は明るく、車もたくさん動いています。

やっぱり、この辺りは、京都の中心街 なんですネ。

さて、それから、すぐに お風呂には入らず、フロントのある1F
に向かいました。京都ならではののお土産が陳列してあったので、
少しだけ、和の香りがするお土産を買いました。



¹ 平安神宮は、桓武天皇は西暦 794 年 10 月 22 日に遷都され、ここを平安京と称せられた。

明治 28 年（1895 年）に平安遷都 1100 年を記念（第 4 回内国勸業博覧会）して、平安京遷都当時の天皇であった第 50 代桓武天皇を祀る神社として創建されました。皇紀 2600 年にあたる昭和 15 年（1940 年）には、平安京で過ごした最後の天皇である第 121 代孝明天皇が祭神に加えられました。

京都2日目の朝は、バイキング料理のはずなのに、番号札で待たされました。団体さんが朝一番で、席が足らなくなっただけです。朝食を待たされるのは、修学旅行っぽいなぁと少々驚いたけれど、やはり観光地としては、日本一の町のせいなんだろうと、あまり気にしませんでした。外国人の旅行者の中には、近くのカフェで朝食を取ることに決めた人達もいて、その点日本人は、律儀なのか、ケチなのか、黙って… とばかりはいかない人もいたけど、まあ、みんな我慢強く待っていたでしょう。1時間もすると、落ち着いて座れたみたいでしたけど…

そのあと、午前11時から 京都御所²に参内予定でしたから、10時過ぎには 荷物をホテルに預けて、地下鉄で烏丸御池から2つ目の駅で降りました。駅を出ると、どの方向か分からなかったけれど、たくさんの人達が歩いているのに続いて歩きました。



しばらくすると、たぶん、これかな？って言うような、それらしき門の前に着き、入ろうとしたら、制服の警察官に止められました。どうしてだか意味が分からないので、近くに立っている人に尋ねたら、皇太子さまがお出でになられるとか…
きっとお忍びだから、数人の私服警察官と、1列ぐらいの人垣で

すんでるんだな、と気づいて、iPhoneで写真を撮ろうとしたところ、皇太子さまのお車が 先導車に続いて、ゆっくり入って来ました。

手を振られるのに応えてこちらも手を振りかえしたら、慌ててしまって、上手く写真が撮れずに残念です。

わたしって いつもそうなんです。シャッターチャンスは、必ずって言ってもいいくらい失敗するんですから…



でも、まあ、身近で顔を拝見できて、ラッキーだったから、いいことにしましょう。

皇太子さまが、入られてから、やがて、私たちの御所の参内が叶い、約1時間の説明を聞きながら、御所内を歩いて見学しました。2つ目3つ目と建築物を見ていたら、あまりに広い敷地内なもので、低い建物の上に空がドーンと目の前に、背景として現れてきます。



檜皮葺（ひわだぶき）というのだそうですが、その屋根の黒々とした色と、壁の白さを際立出せるかのように、空が一面に広がっています。

そのうち、単調な説明の声は、頭の隅に消え去って、ただ、ぼーっと雲の動きを見ていたら、右下にいた一群の雲たちが、流れる

ように左上に向かって動いて行くのに気づきました。

そのあまりの速さに、目の錯覚かと思ったのですが、次の建物の背景に目をやってみると、今度は反対方向の右下から別の雲の一群が右上へと走り去るのです。

その動きに、ただただ、驚いて身動きもせずいたら、こんなことが、以前にもあったような気がしてきたのです。

そうだ… 小学校の修学旅行の時、同じように、雲に驚いて、隣にいた友達に話したのじゃなかったかな…



今と同じように、運動靴を履いてる足が痛くって、足元を気にしながら友達に訴えたような気がしました。その友達は、無頓着に

合図地を打っただけだったのですけれども…
不思議な感じがしました。

建物でなく雲の方に注意を向けている自分が、子供の頃と一向に変わってないことに、驚いてしまったのです。だって、これだけいる旅行者のうち 誰一人、雲なんて見てもいないし、まして動きになんか興味もありません。だから不思議に思うことも驚くこともないんだってことに…

1時間の見学が終わり、お土産に匂い袋を買って御所を後にしました。

その後 地下鉄に乗って、再びホテルに荷物を取りに帰り、そして、また地下鉄で、京都駅へと向かいました。

京都のバスは、混む上に渋滞が多いと、知り合いの人から聞いていたので、電車を利用すると決めていたのです。

京都駅に着くと、JRの電車の時間までには、まだ時間がかなりあったので、駅地下でランチをゆっくり食べてから帰路に着くつもりでした。ところが、やっぱり、京都タワーに登りたくなり、大急ぎで、展望台に上り、望遠鏡を覗いて、街をぐるーっと一望しました。



なるほど、あれが 東寺なんだ、ふうん… などと悠長に言ってい

る暇はなく、降りてからは、駅の改札口まで一目散に走りました。めったに、京都に行くことなんかないし、せっかくだから、タワーぐらいには行っておかなくちゃ と、思ってしまうわたし…おかげで、家族にお土産を買う時間がギリギリになってしまって、焦りました。

そんな旅でしたけれど、京都にしかないものを、私は二つも見て、さらに京都でしか感じるできない不思議な体験をして、持って帰ることができたから、今回の旅もすごく満足しました。出発する前には考えもしなかった、こんな不思議な旅は、きっと、めったにできないでしょう。

京都御所は1331年から、明治維新まで約500年の間、天皇が住まわれた場所。脈々と続く歴史の遺産である敷地には、やはり何か敬虔な空気が漂い、それ故、その上空の気流も何か特別な動きをするのかもしれませんが。



雲は、流れる… 流れて、どこへ行くのかな…

わたしが、お寺を見学の対象に選ばなかったのも、何か、偶然とは思えない感じがしました。

この旅で、私は、もうひとつ 気づいたことがありました。

電車から降りて、目的地に向かうために、道を尋ねることがしばしばだったのですが、どの人も大体、聞きたいことの7割ぐらいしか答えてはくれません。そのあとをもう少し知りたいと、尋ねるたびに思いました。そして、愛想がいいとは言いがたい態度だったのです。

面倒なのか、必要最小限の答えしか返ってこないのです。

そこまでが、私の責任よ、とばかりの答えです。ここからあとは、また、次の人に尋ねなさいっていう感じでしょうか。

京都というところは、不合理な町、そして、それに文句を言っても誰も何も変わらない、いいえ、変えない、だから、仕方なくこちらが合わせるしかないんだってことに気づいたのです。

つまり、あなた達はこの 有名で、日本にひとつしかない神々しい観光地に、来させていただいてるんだよってという住民の思いが、何となく伝わってきます。それが、また、ホテルでの 行列の モーニングにも 現れていますね。

しかし、歩くってことも 悪いことじゃないし、人に頼り過ぎないってこと、目的の為にひたすら待ち、歩き続けることも、また人間にとって必要なことなのかも知れません。

そういう意味では、なるほど、かつての日本人に戻って 行動すれば、貴重な文化遺産に、より感動を持って出会えるのだと思いました。



けれども、やっぱりわたしは、合理的なことが好きな人間のように、ゆっくりとは思いながら、いつもと同様に、今回も 急ぎ旅になってしまいましたねえ…

² 京都御所（きょうとごしよ）は、京都府京都市上京区にある皇室関連施設で、14世紀以来、1869年までの間、内裏、すなわち歴代天皇が居住し儀式や公務を執り行う場所であった。現在は宮内庁京都事務所が管理している。

土曜日は、世の中はお休みモードなのだけれども、わたしの場合、土日は普通に仕事なので、今日みたいに一日中雨が降ると、ほんとにがっかりしますね。

週末は、ちょっと疲れもストレスも溜まってきているし、楽しいことや、自分の周囲に明るい話題などが全くないと、つつい、気分も滅入りがちになってしまいます。

わたしは ふだん、家族と一緒に暮らしているので、家族に対して気を使わなければならないこともあって、家の中でも いろい

ろと目に見えないストレスが溜まります。

子どもが大人になると、言いたくても、じっと我慢しなくてはならなかったり、反対に言いたくないことも言う必要があったりと、いろいろと面倒です。



その割には、小さな子どもと暮らしている時と同じくらいの雑用がなくなるので、時には、この環境から逃げ出したいことがないとは言えません。

わが家の場合、楽しせてもらえるのは、きっとわたしがすごく年老いてからなんだろうな…



自分が 早くに親を亡くしたので、わたしにはそういう子どもとしての幸せな経験が あまりないのです。だから、つい 愚痴がこぼれそうになったりもします。そういう時、こんなふうに 想像するのです。

「不思議の国のアリス」みたいはどこかへ出かけよう…

想像の世界に踏み出そう…

現実には全くありえない 世界に入り込むんです。

あのお話しは、きっと、現実のうっとうしさから逃げ出したい大人が考え出した 童話なんじゃないでしょうか。

人間であることが つくづく嫌になったら、おとぎ話の世界に入

り込めば楽しめるって、意味かもしれません。

そして、夢の世界にどっぷり浸かって満足したら、生きて行くためには仕方のない、現実の世界に戻ろうよってことなんじゃないんでしょうか。

だって、おとぎ話は、みんな大人が考え出したものなのですからね。

11月も押し迫り、あと数日で 今年も最後の月になりました。

転居してから早いもので、もう5年目になります。

考えて見ると、わたしは、この土地のことを全く知らない内に、

住むようになり、今では 当たり前のように暮らしています。

ここを、住む場所として決めたのは、ほとんどわたしの考えなのです。

まず、町過ぎないところ。なぜなら、人情味が少ないからです。

次に、田舎過ぎないところ。それは、わたしが、町の中で生まれ

て育って、その利便性に慣れてしまっているからです。

年を取って車が使えなくても、電車やバスで、買い物や病院や公共の施設に出かけられるところが良かったのです。

そして、もちろん、パソコン教室を開くのに、良いところ。

団地の煩わしさがなく、道路沿いで、わざわざ広告をしなくても、自然と目に留まる位置であること、近くに同じ種類の教室がない



ことでした。

それから、個人的には、「倉敷市民会館」に遠く離れないところ。

オフの時、いろんなコンサートや演劇などを、気軽に観に行きたいからでした。

倉敷市民会館には、岡山市よりも人気のアーティストが訪れるからです。

最後に、岡山へ行くのに電車を利用しても、便利であること。友人知人、親戚が、岡山に住んでいるからです。

そういう理由で この地に住むようになって、あっという間の年月が経ちました。

5年という年月が、まるで嘘のようで、もうずーっと以前からこ

ここに住んでいるような気がします。

それは、やはり、住みやすかった、馴染やすかった、というのが一番の理由 なのだと思います。

本当に、有難いことだと思っていますし、また、教室あってこそ、だと思っています。

見ず知らずの 女性が経営する小さな教室が、他の教室同様、信用のおける教室として、地元の方に受け入れていただいたおかげだと、わたしは、つくづく感謝しているのです。

さて、今朝は久しぶりに朝の散歩をしました。

いつものコースの中に、ひっそりとした神社があります。

神社の名前なのを知らなかったなので、ネットで調べてみたら、名

前は「金毘羅大権現」。なんだか、あまりによく聞く名前で、ちょっと肩すかし、でしたけど…

由来は、岡山藩の支領であった天城領を所領とする天城池田氏が、本家である岡山城の池田氏の領地との間を往復する際の中継点として、休憩所を置いた場所なのだそうです。そのため金毘羅往来の巡礼者もここで休息を取ることがあり、そのせいで茶屋が多く置かれたため、それでこの土地を「茶屋町」と言うようになったそうです。



茶屋町の「金毘羅大権現」は、その巡礼の中盤における中継地点



で、金毘羅へ向けた巡礼地のひとつとして機能したようです。

建物は真言宗系寺院に近いもので、境内の北側は地域の小規模な遊び場のための広場

として整備されており、鉄棒やブランコ等の遊具や、藤棚などの休憩所があります。

広場内には茶屋町地区の治水碑など、街の発展史に関わる碑石もいくつか存在しているようです。(ウィキペディアより抜粋)

ちなみに香川県の「金刀比羅宮」は大物主神（おおものぬしのかみ）と崇徳天皇を祀っている神社で、縁結び、商売繁盛、健康運

などのご利益、その他にもさまざまな幸運をもたらしてくれる神社だそうです。

別のサイトでは、開運幸福、豊かに繁栄させるパワースポットと書いてありました。

茶屋町という土地の由来も、全く知らなかったけれど、この神社が、こんな理由で建てられたということを全く知らないで、毎日手を合わせていたのだと思うと、何だか不思議な感じがしますね。

わたしが願うのは、いつも、



今日一日が良い一日になりますように、幸せな人生が送れますように…
です。

あなただったら、いったい何を、お願いするのでしょうかね？



今日はお休みなので、少しゆっくり目に起きて、迷いながらも着替えをすませ、外に出ました。

なぜ迷ったかというと、6時30分を過ぎると、この辺りはずいぶん車の量が増えて、歩いて道路を渡ることが難しかったり、車が、びゅんびゅんと早いスピードで走っていて 後ろから来ると危ないのです。

けれども、このところ 仕事ばかりにエネルギーを使っていて、あとは、夕方の家事で疲れてしまうので、朝歩こうという気分

ならなかったのです。

だから、昨日、歩くかどうかは 明日の気分次第に任せようと思
っていて、で、今朝は急に 歩いてみよう…って、まあ その気にな
ったってところです。

歩いていくと、結構、風は冷たいけれども 気持ちはいいし、空
もまだまだ、朝の空だし（夜が明けるのが遅いから）外に出て良
かったっていう 気にはなりました。

最近、寒いので、歩き始めて体が少し温かくなりかけた頃から、
ゆっくり走り始めます。いつもの 町内を過ぎたら、速度を落と
し、また、歩き始めます。

どこかで、カラスが カーカーカーカーカーと まる
で警告してるみたいに、鳴いています。



神社の木々は葉っぱを落とし、境内の中は すっきり
きれいになっていました。誰かが、草を刈ったり、
枯葉を集めたりしたみたいですよ。中が良く見えるようになったの
で、いろんなものに気づきました。

碑が立っていて、銅像があつて、周りにはちっちゃな公園があり
ます。

秋までは、木が茂っていて、神社の中を見渡すことができません
でしたが、冬になって、こう、すっきり見渡せるようになると、
こちらは、もしかすると、それなりに由緒正しい神社なのではな

いかと思えてきました。

神社の前で、そんなことを思いながら、手を合わせ、再び 小走りに進みます。

いつものように土手を走り、やがて、川にかかる橋に来たら 今度は歩いて渡ります。

そのあと、川沿いに下って田舎道に入ると、もう、あまり、人には出会いません。今朝は、鳥の姿も見かけませんでした。

やがて、コスモスが咲いて、蜜柑や柿が生っている家のあたりに来ると、今度は 我が家の近隣の神社に着きます。

ここでも 柏手を打って、それから、マンション近くまで、走ります。



少し息が切れてきたところで、右手に新しい家ができているのに気がつきました。

すごく、シンプルで、軒もなく、雨戸もなく、すっきりしていて、ちょっと寂しいくらいの家です。

不必要なものがなくて、あっさりしていて気持ちよさそう。

無駄が無いのは、気持ちのいいことなんですね。だけど、無駄が無さすぎるのは、ちょっと先行きが心配だな。

今が全てじゃないし、まだ、先は長いからなあ…

とか考えたりして… あ、これは、余計なお世話でしたね。

明日のことは、明日考えればいいのでした。

そして、マンションの横を、小走りに通り過ぎると、もう、わた



しの家が見えてきます。

今朝は、走ったりもしたので、景色をゆっくり見ることができませんでした。それが残念で、最後に後ろ向きに歩いて空を眺めました。

今度歩くのは、きっと1週間先になるでしょう。だから、朝の風景が名残惜しかったのです。

柿の木には実がたくさん成って、今にも零れ落ちそうでした。ピンクや黄色の色とりどりのコスモスは、姿を消し、今は白いコスモスだけが、最後の花を揺らしていました。

やがて来る、寒い冬の気配とともに…

年をとる

2015-12-19 (土)

12月も3分の2が過ぎ、あともう少しで、今年も終わりです。スーパーへ行くと、クリスマスソングが流れて、何だか胸がキュンとなる、いつもの季節になりました。

教室に来てくれていて、いつもたくさんの贈り物をくださっていた、シニアに先日、自分勝手ながら、わたしの本と歌集を送りました。クリスマスが近いので、チョコレートも一緒に…

2年が経つでしょうか。

教室をやめられてからは、物忘れをするようになり、今は娘さんのお世話になっているのだそうです。電話でお話をした限りで

は、変化も感じられませんでしたけれども…

5分も経つと、もうお話しの内容は覚えておられないのだそうです。

今まで、わたしはいつも、皆さんにいろんな贈り物をいただき、もちろん、気持ちばかりのお返しもしてきたのですが、教室を運営している限り、それはやはり、見返りとは言わないまでも、教室をよろしく という気持ちがあるのでは… と受け止められても仕方のない お返しだったな、と思いました。

やめられてから後、初めて、本当の意味の お礼ができたのではないかと、思いました。

あきらめる

心は弱さにあらずして

運命を天に任せることなり

頑張って、大多羅という駅から、岡山駅でマリンライナーに乗り換えて茶屋町まで来てくださった方に、わたしは最後にこう言ったのを覚えています。

もう、娘さんに甘えてもいいんじゃないですか？

それから、わたしには体の不自由な従姉がいるのですが、クリスマスプレゼントを贈ろうとして、探すのにとっても時間がかかってしまいました。

なぜなら、足が痛くてあまり歩けない人には、帽子もマフラーも、手袋も、たいして必要性がなく、オシャレなデザインの三角ストールも、あったかくて長いスカートも、厚手の靴下も、歩くのには、危険なので贈れません。



また、ブランケットも椅子に座らないので、要らないし、バッグも、たすき掛けになるくらいのショルダーで、軽くて、開けやすく、しかも黒とかの地味な色でないもの…と言うと、ほとんどありません。

どうしてかと言うと、若者向きのバッグは、オシャレな色やデザインだけれども、重すぎたり、片手で杖を突き、片手でバッグを

開けるのには バックルなどが硬かったり、簡単で開けやすいものがあつたと思えば、黒や、グレイの地味な色合いで、例え、年相応であつても、それは嬉しくないからです。女性は、明るい色の可愛い物がいいに決まっています。

結局、足を棒にして探したあげく、生活にはあつてもなくても良いもの、これは何なのかと 不思議に思わせるもの、使い方によっては、役にも立つこともあるもの、ということで、ちょっと大きな ネコのぬいぐるみっぽい ティッシュカバーを贈ることにしました。



案の定、これ、なに？ってメールが来ましたが、ちょっと考えさせた方が楽しいので、数時間返事をしませんでした。

ギブアップのメールが来てから、答えを教えたら、ワーオ！ってメールが届きました。

楽しくなりますよね…

贈って良かったと思いましたが、わたしは、今まで、不自由な体の人に贈るもの、という目線で、品物を贈ったことがなかったと反省しましたし、また、お店にはそういった人たちに贈るものが、いかに少ないのかということにも気づきました。

さて、ちょっと話は飛びますが、12月10日に岡山市民会館で上演された、ミュージカル「クリスマスキャロル」を観に行った時、彼女から、Excelに関する質問がメールで届きました。

中休憩の時に気づいたのですが、正直ちょっといやな気分になりました。家に帰って、夜遅く、回答を送信してから後、ふと気づきました。

わたしには、仕事が終わって電車で飛び乗り、走って観に行ける、元気な体があるのです。何で走ったかと言うと、チケットを家に忘れてきたことに気づいて、引返したからなんです。

でも、世の中には、そういう楽しみ方を、最初から選ぶことができない人もいます。だから、楽しみの最中に送られてきた 質問のひとつぐらいに 嫌な顔をするのは、間違いだと思いました。



そういう訳で、わたしは、この従姉に クリスマスプレゼントを贈ってあげようと、心から思ったのです。

こうして、わたしのクリスマスプレゼントは、わたし自身の中で、それぞれの意味を持つ、本当のプレゼントになりました。

このミュージカル「クリスマスキャロル」は、亡き川島なお美さんの追悼公演でした。

終了後、舞台上で、彼女の メッセージが 劇団員の人に読み上げられました。

『人は、幸せだから笑顔になるんじゃない。

笑顔でいるから、幸せがやって来る。』

という言葉が 私は好きです… と

そう言えば、病んでからの彼女の写真は わたしがTVや facebookで 知る限り、いつも笑顔でしたね。

この人、こんな ステキな人だったっけ？ と思ったものです。

ちょっと小生意気な キャラクターで 売っていた頃の 彼女とは、
かけ離れた 印象でした。

そうこうしているうちに、クリスマスが近づき、教室の生徒さん

に、ささやかなお菓子袋を渡していたら、40歳代の生徒さんが、話のついでに、年を取ることは「怖くて いやだ」と言うのです。40歳までの人には、そういう話をあまり、聞いたことがありませんが、50歳が近くなってくると、いろんな意味で、老いるということが身近な問題として、捉えられるのでしょうか。

それで、わたしは、こう言いました。

年を取るということは、きっと「りこうになること」なんじゃないのかなって。

今まで、してもらうことが当たり前だった若輩の人間が、初めて、相手の立場、気持ちが分かるようになり、今度は、してあげられる立場になることなのです。

何も分からず、礼儀や恒例の行事として 相手に対して行っている場合と、相手の立場を知り、心から願って実行することの間には、その意味合いに 大きな隔たりがあるということなのです。その意味が分かるようになることが、つまり「年を取る」ということなのではないでしょうか。

だから、年を取ることは「りこうになること」
素晴らしいことなのだと わたしは思っているのです。



ふうちゃんのひとりごと II

著 者：あさの 風子

発効日：2016年1月3日

発 行：みつわばそこん教室

=お願い=

この製品の転載、転売 は禁止されています